

<抄録原稿書式など>

ページ設定

用紙： A4サイズ

頁数： 1ページ

段数： 1段

文字数： 40字

* ([ページレイアウト] → 【ページ設定】 → 【文字数と行数】 タブ)

行数： 42行

* ([ページレイアウト] → 【ページ設定】 → 【文字数と行数】 タブ)

余白： 上下左右 20mm

* ([ページレイアウト] → 【ページ設定】 → 【余白】 タブ)

フォント

演題名： MS明朝 12, 太字

その他： MS明朝 11

文字数

本文 **400 字以内**

※演題名・所属・演者・共同演者は 400 字の中に含めなくてよい

その他

※数字は半角で入力する

※本文は、[はじめに] [方法] [結果] [考察] の流れで作成する
(但し、[はじめに]~[考察]の言葉は本文には**記載不要**)

※患者の個人情報を特定できる表現や固有名称は避ける

<提出抄録の記入例> (スペースの都合上により書式は上記設定より縮小しております)

	液状化細胞診 (Thin Prep 法) 導入の成果について	
	福山市医師会 診断病理学課 ¹⁾ 、臨床検査課 ²⁾ ○○○○ ¹⁾ 、○○○○ ¹⁾ 、△△△△ ²⁾ 、△△△△ ²⁾	<p>※副題は“～ ～”で表す 演題名～副題～</p>
[はじめに]	当センターの子宮頸がん検診は、2009年までは綿棒による直接塗抹法が主流のため採取者により細胞採取量や塗抹状況に差が認められた。その結果、細胞量不足や乾燥による“不適正”も多くその取り扱いに苦慮していた。そこで我々は、標本作製の標準化と異型細胞の検出率を高めるため2010年度から TP法 (液状化検体細胞診) を導入して1年が経過したのでその成績を報告する。	<p>所属医療機関・部署を記入 ※法人名は省略 ※病院は所属部署 (診療科) まで記入 (内科, 看護部, リハビリテーション課 等) ※所属病棟や職種は省略</p>
[方法]	2009年度23,590例と2010年度23,008例についてダイレクトバイアル法を用い、各種検診別にその結果の比較と鏡検時間、細胞像の相違点等を検討した。	<p>※発表者を先頭に記入 ※所属が複数になる時は 各演者の氏名の後に所属を表す上付き数字を記入</p>
[結果]	各種検診別の構成人数、平均年齢、年齢別分布はほぼ同様であった。不適正率は0.3~0.0%と減少したが不適正は残った。HSIL以上の検出率は0.22%上昇した。鏡検時間は、均一な標本により鏡検し易く時間は短縮できた。	<p>※略語を使用する際には、 初回使用時に括弧書きで 説明文を記載する</p>
[考察]	細胞像が従来法とは若干の違いがみられるため小型異型細胞の判定など鏡検には慣れが必要で更なる経験と研修が必要と考える。	<p>※患者の個人情報を特定 できる表現や固有名称 は避ける</p>
	<p>※本文は必ず400字以内にまとめる</p>	<p>(例1) 年齢 ×45歳 → ○40歳代 ×19歳 → ○10代後半 (例2) 日付 ×2011年12月5日 → ○2011年12月 ○2011年12月上旬</p>